



みなさま いつも「はなまる訪問看護リハビリステーション」をご利用いただき、まことにありがとうございます。今月号はみなさまご関心の高い「**新型コロナウイルスワクチン**」についてのお話です。日本政府は、高齢者への接種は4月1日以降と発表しています。様々な情報が入り乱れていますので、ここで一度整理してお伝えいたします。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



はじめに

このたびの新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々に対して心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、現在感染症状と戦っておられる方々にお見舞い申し上げます。1日も早いご回復をスタッフ一同お祈りしております。

ワクチン接種の現状について

○世界では

2021年2月1日現在、**世界で承認されているワクチンは7つ**。このほかにも、現在臨床試験中のワクチン(正確には候補)は63種類、また、173種類がこれから臨床試験に入る予定です。中東の一部の国では接種が順調に進んでいますが、世界的には計画通りに進んでいないのが実情のようです。生産体制、物流体制、接種体制それぞれに滞りが生じているようです。

○日本では

米ファイザーと独ビオンテックの共同開発によるワクチン(mRNAワクチン)が**2月下旬にも承認される見通し**で、承認後ただちに先行して医療従事者2万人に接種される見通しです。厚生労働省によると、英アストラゼネカと英オックスフォード大学の共同開発によるワクチン(ウイルスベクターワクチン)も3月中に日本に供給され、ファイザー社製とともに**医療従事者、高齢者、基礎疾患を持っている方々、一般の方々へと順次接種(間隔を置いて2回必要)**が行われる見通しです。先進国の中でも接種開始が遅れている分、各国の実例を参考にしてスムーズに実施されることが望まれています。

○国産ワクチン

日本国内では主に5つのワクチン開発が進行中です。アンジェス/大阪大学/タカラバイオのDNAワクチンと塩野義製薬の組み換えタンパクワクチンが臨床試験中ですが、各社とも残念ながら現在のところ供給開始の見通しは不明です。

ワクチンの種類について

○新しいタイプのワクチン

従来は、インフルエンザワクチンに代表される生ワクチン(ウイルスを弱毒化させたもの)と不活化ワクチン(感染力を失わせたもの)が一般的ですが、ファイザー/ビオンテックとモデルナのワクチンは、世界初となる**mRNA(メッセンジャーアールエヌエー)ワクチン**と呼ばれる新しいタイプのワクチンです。各社は、これまでの海外での接種後の検証により、**9割以上の感染予防効果が実証された**と発表しています。インフルエンザワクチン(*)の予防効果が3割から6割弱と言われているので、これが日本人にも当てはまれば大きな効果が期待されます。

※インフルエンザワクチンは、そもそも感染予防効果はあまり期待されておらず、重症化を防ぐことが主な目的ですので、単純な比較はできません。

また、今注目されている**変異ウイルスにもいち早く対応できる**という利点もあります。

このほかにも、上記で紹介した「ウイルスベクター」「DNA」「組み換えタンパク」のほか、従来の「不活化」など様々なタイプのワクチンが現在開発されています。

○大量生産可能

従来のワクチン開発には、通常5年から10年ほどが必要とされていますが、過去に起こったSARSやMARS、また、ジカ熱やエボラ出血熱などの新たなウイルスに対抗するため、様々な新しいワクチンの研究が進行中であり、新型コロナウイルス(COVID-19)用のワクチン開発にもその技術が生かされました。このような新しいタイプのワクチンは**短期間で大量に製造できる**というメリットもあります。

ワクチンの効果と将来性について

○ワクチンの効果

新しいタイプのワクチンは、長期間の検証結果がないため、効果についてもリスクについてもわかっていないことが多数あります。しかしながら、各国の(短期間ではありますが)検証結果を見ても、感染予防効果や副反応については、インフルエンザワクチンなどと比較しても、**従来と同等かそれ以上の良い結果**が続々と報告されています。感染を完全に予防するワクチンは現在ありませんが、**重症肺炎の予防や感染しても発症しない**などの効果は実証されつつあります。発症しないということは他人に感染させる可能性が低いということでもあります。

免疫の持続期間についても気になるところですが、少なくとも6か月間は有効であるとのこと。その後効果が減少してきても、一度抗体ができてしまえば、ウイルスが体内に侵入したとき、すぐに抗体が活性化すると考えられています。

○将来有望なワクチン

現在研究されているワクチンの中には、**接種1回で済むものや、一生涯抗体効果が持続するもの、副反応がほとんど起こらないもの**など、様々な種類の研究開発が行われており、近い将来それらは実現されるものと考えられます。

副反応ってどうなの？

～正しい知識を身に着けよう～



「ワクチン接種で新型コロナ感染が予防できたり、重症化のリスクを減らしたりできることは分かったけど、副反応ってどうなの？ちょっと怖い…」と思っている方も多いようです。ここでは、諸外国の実例を元に、接種時の痛みや副反応について解説します。

腕の痛み

接種部位は二の腕の筋肉です。ワクチンは筋肉の細胞組織内で有効なたんぱく質が作られ、それが免疫となっていきます。筋肉注射ですから、打つ時も少々痛いのですが、2、3日後に痛みが現れる(接種者の数%)場合もあります。注射したところと腕全体に数日間痛みや痒みが残る場合もあります。しかしながら、ほとんどの人が1週間以内に無くなりますので、心配はいりません。

頭痛

こちらも腕の痛みと同様に症状が起こることがありますが、ほとんどの人は軽い症状です。

倦怠感

接種者の10%程度に症状が出るのが報告されていますが、軽い人がほとんどです。

アレルギー反応

－アナフィラキシー症状(全身に蕁麻疹、咳、喘鳴、呼吸困難、下痢、腹痛など)

10万人に1人程度の割合で起こっていることが報告されています。ほとんどの例では、過去にアナフィラキシー症状を起こした経験のある方です。インフルエンザワクチンはもちろん、一般的な処方薬、市販薬でもこの程度の割合でアナフィラキシー症状を起こす人がいます。よって、過剰に心配するような数字ではありませんが、過去に食品や薬品などでアナフィラキシー症状を起こしたことがある方は、必ず事前に医師に相談してください。

接種後30分程度安静にして、症状が出ないことを確認してから帰宅します。

万が一アナフィラキシー症状が出た場合でも、アドレナリン注射(エピネフリン)で症状が緩和します。

－花粉症

発症のメカニズムが異なりますので、症状が酷くなるとかアナフィラキシー発症のリスクが高くなるとは、今のところ考えられていませんが、心配な方は事前に医師に相談してください。

また、昨今、くしゃみは周囲の方の過敏な反応につながります。万一感染していた場合はウイルスを拡散させます。無意識に目を掻いてしまい、感染する危険もあります。今年は早期から花粉症を治療しましょう。

※以上は、今後日本国内に供給が予定されているファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社のワクチンについての報告です。ワクチンの種類や個々人の体質、接種当日の体調などにより反応は様々ですが、今のところ重大な安全性の懸念点は認められていません。

一部厚生労働省のHPより抜粋



はなまるの主張

ワクチンを接種するかどうかはあくまでも個人の判断です。しかしながら、新型コロナウイルスに感染して死亡、重症化、後遺症などのリスクや、感染に怯えて暮らす生活を考えれば、接種する価値は十分以上にあると考えます。

私たち「はなまる訪問看護リハビリステーション」は、ワクチン接種を推奨いたします。

オイロも
ゼッタイ
打つぞー！
注射きらい
だけど…



ちびワルコ代表

疑問点やご心配のことがございましたら、スタッフにご相談ください。新しいワクチンは不明点も多いので、すぐに回答できない場合もありますが、ご容赦願います。また、ワクチン接種に関する個別のご相談は主治医までお願いいたします。



はなまる訪問看護 リハビリステーション

お気軽にお電話ください♪

028-678-2990

URL <https://www.hanamaru-nurse.com/> E-MAIL houkan@nissho-tec.co.jp 月～金 08:30～17:30

運営体制 ○看護師7名 ○理学療法士5名 ○作業療法士2名 ○言語聴覚士1名 ○臨床心理士1名 ○事務員2名

各種指定等 難病 精神 自立支援 小児 生保 被爆者一般 労災 特定疾患等
各種加算等 24時間対応体制 緊急時 特別管理Ⅰ,Ⅱ 精神(複数回、早期集中)等



メインステーション
宇都宮市駒生町832-29
レジデンス中村105号室



サテライト岡本
宇都宮市下岡本町4520-13
みなみハイツ102号室